仕える姿勢

シリーズ～続 福音の力～

2021/2/14

ルカ福音書22章24～30節

また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった。そこで、イエスは言われた。「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。

しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。あなたがたは、わたしが種々の試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた。だから、わたしの父がわたしに支配権をゆだねてくださったように、わたしもあなたがたにそれをゆだねる。あなたがたは、わたしの国でわたしの食事の席に着いて飲み食いを共にし、王座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる。」

誰が偉いか論争

- 過ぎ越しの食事の際の出来事
  - イエス様が盃をとって「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。」と言われた直後
- 食事の席順をめぐって起こったのではないか
  - ユダヤの公式の食事の際には社会的地位の順番に上座から座るようになっていた
- これまでにもあった弟子どうしの順位争い
  - 「ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、…言った。『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。』マルコ10:35-37

物語の主人公は誰か？

- まったく空気の読めない弟子たち
  - イエス様にとってこの食事がどれほど重要な意味を持つかということなど、まったくおかまいなし
- 自分の物語（人生のシナリオ）にしか関心がない
  - イエス様のお話しも自分に都合良いことや、関心のあることしか耳に入らない＞弟子たちにとって人生の主役は自分である
- 聖書の言葉を誰の物語として聞くか
  - 自分の物語のために聞いているなら弟子たちと同じ！

物語の主人公は誰か？

- まったく空気の読めない弟子たち
  - イエス様にとってこの食事がどれほど重要な意味を持つかということなど、まったくおかまいなし
- 自分の物語（人生のシ
  - イエス様のお話しも自分
    あることしか耳に入らな
    の主役は自分である
- 聖書の言葉を誰の物
  - 自分の物語のために
    じ！

もし少しでもイエス様の思いを感じていたら、こんなくだらないことでもめることはないはず！

聞いていたしても情報が選択されたり、ゆがめられたりする

比較することの愚かさ

「下」と思う
ことも問題

- 自分の価値を「順位」でとらえる
  - 「誰より上か、誰より下か」という意識
- 私たちは「タテ社会」の国に住んでいる
  - 上下関係に敏感（「敬語」の存在）
- 神様の評価こそ留意すべき
  - この世の相対的評価ではなく、神の国における絶対的評価
  - 「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする。」イザヤ43：4

むしろ「仕える者」になりなさい

- 「偉い人が上」は異邦人（人の国）の秩序
  - 「異邦人の間では、王が民を支配し、民の上に権力を振るう者が守護者と呼ばれている。」
- 神の国ではその逆である
  - 「しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。」
- 給仕される者ではなく、給仕する者に
  - 「食事の席に着く人と給仕する者とは、どちらが偉いか。食事の席に着く人ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である。」

仕える者となられた神

- 本来仕えられるべき方であるイエス様
  - 万物の創造主であり、存在の源である方
- 仕え尽くされた方
  - 「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」。フィリピ2:6−8

仕える者になるために

- 仕えようとする人の物語を考える
  - 自分が主役である間は、仕える気持ちにならない
  - 「名脇役」となる
- 一流の給仕を目指して！
  - 言われたことをやるのは三流
  - 言われる前からやるのが二流
  - 言われてもいないことをやるのが一流
- 私たちの目標は超一流の給仕である方
  - 私のような者のために命まで捨てて下さった